

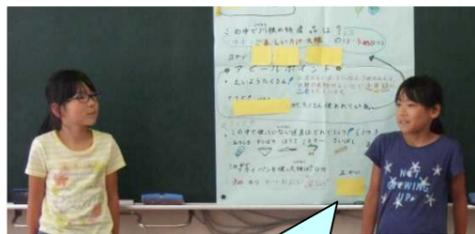
『効果的に伝える方法を友達と追究することで、自分の考えを一層確かにする』姿

単元名 「地元のお茶をアピールしよう」【10/12時】
本時の目標 地元の特産品であるお茶を使ったふりかけの『アピールポイント』を効果的に伝える方法について友達と追究することを通して、自分の考えを一層確かなものにする事ができる。

本時の授業について

社会科の授業で地元の特産品について学習した真凜さんは、自分の住む町や〇〇茶に対する誇りを持ち始めました。しかし、その後の総合的な学習の時間の中で、「私の住む町をもっと好きになろう」というテーマのもと、お茶農家、お茶工場の方にインタビューをした際、「お茶を作る人が減っている」「お茶が売れなくなっている」という事実と直面します。これまで描いていた思いと現実のずれから、真凜さんの中に「〇〇茶は有名で、すごく売れていると思っていたのに、どうして売れなくなっているのだろうか」「なぜ自分たちの誇りであるお茶が売れないんだろう」という問いが生まれ、そこから「〇〇茶をもっと多くの人に知ってもらうために、自分たちにも何かできることはないだろうか」という切実な課題を持ちました。そして、「〇〇茶をより多くの人に知ってもらう」という目的を達成するために、真凜さんのグループは〇〇茶を使ったオリジナルふりかけを作り、地域の方に提案することにしました。

本時の授業では、次時で行う発表会に向けて互いの発表を聴き合い、より伝わりやすいものになるようにアドバイスをし合いました。効果的に伝える方法について友達と共に考え、自分の課題への追究を立ち止まって見つめ直したことで、真凜さんは自分の考えを一層確かなものにする事ができました。次時の発表会で真凜さんのグループは、お世話になったお茶農家、お茶工場の方に自分たちの考えたお茶ふりかけについて分かりやすく提案する事ができました。



お茶ふりかけには、しいたけやゆずなど、町の特産品がいろいろ入っています。



栄養満点で体にいいことを伝えたら、みんなが食べたくなると思います。

目的意識、他者意識を持ったまとめ・表現

真凜さんのグループは友達から質問やアドバイスをもらったことで、何のために考えをまとめ、それを誰に伝えたいのか、明確にしていきました。伝えたい相手や内容が明確になったことで、お茶農家、お茶工場の方に自分たちの考えを分かりやすく伝える事ができました。このように、まとめや表現の場面では、伝えたい相手を意識して、内容を精選していくこと、また、発表にクイズを取り入れていくことなど、伝え方を工夫することが大切です。

教科等で学んだ知識や技能の活用

飯塚先生は、ポスターで発表することに決めた真凜さんのグループに、「国語の『生き物のとくちょうをくらべて書こう』で学習した伝え方を参考にしたらどうか」とアドバイスしました。真凜さんたちは、国語の教科書を見返しながら、クイズなどを交えた形で伝えていくことにしました。今までに身に付けた知識や技能を活用しながら、分かりやすく伝えようと試行錯誤する姿が見られました。

探究的な学習するための工夫

本時では、「〇〇茶はどのように売れなくなっているのだろうか」という問いから課題が設定され、探究的な学習が始まりました。これは、飯塚先生が子どもの思考過程を見通して単元を構想したからです。総合的な学習の時間では、教師が子どもの問いが生まれるような人・もの・こととの出会いの場面を設定したり、その問いが持続し、単元の後半にはさらに問いが発展するような授業展開を考えたりするという単元全体を見通した構想を子どもの姿で考える事が大切です。

〇〇茶をアピールするための真凜さんの課題
『〇〇茶をたくさんの人に知ってもらうためにできることは何だろう』

真凜さんの新たな取組

- ・保護者や地域の人への提案
→保護者や地域の人たちにお茶ふりかけを試食してもらう
- ・栄養教諭との連携
→給食の献立として採用してもらうために、さらに改良を進める
- ・お茶ふりかけのPR方法
→より多くの人に知ってもらうための方法を考える

まとめ・表現
 (第10時～第12時)

- ・アピールポイントのまとめ
- ・**プレ発表会**
本時(第10時)
 →友達からのアドバイスで改善
- ・お茶農家、お茶工場の方への提案

「お茶の味がしておいしいよ」とお茶業者さんに認められた経験は、真凜さんの学びの実感につながりました。それは真凜さんの「もっとお茶ふりかけを利用して、〇〇茶を知ってもらいたい」という思いを高めました。社会との関わりを意識した単元計画が学びの充実につながりました。

課題の設定 (第1時～第2時)

- ・工場見学、お茶農家、お茶工場の方へのインタビュー

「探究的な学習」を生み出すためには、まず課題の設定が重要です。飯塚先生が工場見学やインタビューなどの体験活動を意図的に設定したことで、子どもに問いが生まれ、課題解決に向けた追究を主体的に始める事ができました。

お茶を飲んだり加工品を試食したりする時間を設定したことで、子どもはお茶のおいしさや幅広い用途があることを実感し、アピールしたいポイントを見付けました。

情報の収集
 (第3時～第4時)

- ・お茶のよさ調べ
- ・お茶の栄養(栄養教諭の話)
- ・お茶の加工品調べ



整理・分析 (第5時～第9時)

- ・お茶の加工品の選択
- ・お茶ふりかけのレシピづくり(栄養教諭との連携)
- ・お茶ふりかけの試作品調理(家族やお茶農家さんたちの試食)

飯塚先生が、整理・分析の手段として思考ツールを用いたことで、真凜さんは自分がアピールしたいお茶ふりかけのポイントや、伝え方を整理する事ができました。

